平成 28（2016）年度第 2 回門真市文化芸術振興審議会 会議録

会議名称	平成28（2016）年度第 2 回門真市文化芸術振興審議会
開催日時	平成29（2017）年 1 月24日（火）午前10時から11時15分まで
開催場所	門真市民プラザ 門真市立生涯学習センター 第1会議室
出席者	(委員) 朝倉会長、清澤副会長、登委員、早川委員、木ノ下委員 【出席人数 5 人／全 5 人中】 (事務局) 柴田生涯学習部長、牧菌生涯学習課長、前出課長補佐、 藤田副参事、春日上席主査、小寺係員、吉田係員 (指定管理者) 特定非営利活動法人トイボックス 栗田代表理事、別府副館長 アクティオ株式会社 山本門真市民プラザ長、 実島生涯学習センター長、日置文化会館長
議題 (内容)	・ 審議会の役割について ・ 門真市民プラザ、公民館、文化会館の事業について ・ 今後の審議会について
傍聴者数	0 人
担当部署	(担当課名) 生涯学習部 生涯学習課 (電 話) 06-6902-7197 (直通)

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、審議会を開催したいと存じます。開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をいたします。(資料確認)

以上でございます。資料に不足はございませんか。

それでは、以降の進行を朝倉会長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

【朝倉会長】

それでは、平成28（2016）年度第 2 回門真市文化芸術振興審議会を開催いたします。

まず、本日の案件について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、本日の案件についてご説明します。

まず、前回もお話がありました門真市文化芸術振興審議会の役割について、門真市の文化芸術振興の方向性とあわせて、あらためて資料を用いてご説明します。

次に、昨年までの審議会で、「指定管理者も審議会に出席していただきたい」「アクティオの事業について知りたい」といったご意見があったため、今回は門真市民プラザ、公民館、文化会館の紹介後、三館の指定管理者であるアクティオ株式会社から事業の報告を行っていただきます。

最後に、今後の審議会について、現時点で私どもが考えている方向性をお示しし、ご意見をいただきたいと存じます。

なお、前回いただいたご意見は、会議録等であらためて確認しながら、ルミエールホールに関するものはトイボックスとともに、全体に関わるものは市職員で、今後の文化行政に活かすことができるよう検討していることをご報告いたします。

【朝倉会長】

ありがとうございます。本日の案件について、事務局から説明がありましたが、このとおりでよろしいでしょうか。

それでは、案件 1 について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、門真市文化芸術振興審議会の役割について、門真市の文化芸術振興の方向性と併せてご説明します。資料 1「門真市文化芸術振興条例」をご覧ください。

門真市では、門真市文化芸術振興条例を平成19（2007）年に制定しております。条例の前文では、『私たち一人ひとりが創造的な文化芸術活動を通じ、「このまちに住みたい」と思えるような魅力と誇りある「わがまち門真」を実現することを決意する』とし、門真市の文化芸術施策の目的が「まちの魅力と誇りを高めること」であることを明らかにしておることから、門真市が行う文化芸術施策では、「まちの魅力と誇りを高めることにつながるか」を意識して進めております。

また、条例第 6 条に基づき、文化芸術振興施策の総合的な推進を図るため、門真市文化芸術振興審議会を置き、平成22（2010）年に門真市文化芸術振興基本方針を策定しました。資料 2「門真市文化芸術振興基本方針」の13ページをご覧ください。

この基本方針では、文化芸術振興施策を進める上で柱となる三つの方向「協働による新しい文化芸術活動の推進」「文化芸術にふれられる場づくり」「文化芸術の担い手づくり」を明記しております。また、15ページ以降には 3 つの方向を踏まえた17の基本施策等を定めております。平成 23（2011）年度までは市長部局で、平成24（2012）年度からは教育委員会事務局において、これらの基本施策等の推進を図るための様々な事業を、一貫して進めてまいりました。

一例をあげれば、「協働のしくみと場づくり」という施策では、「多様な立場の人々が事業参加できるしくみづくり、文化芸術振興パートナーシップ組織の設立に向けた検討を行います。」という施策内容に関して、平成23（2011）年度から公民協働会議アトリーグ門真を清澤副会長にご協力いただき設立するなどしてまいりました。

審議会の役割としては、条例及び基本方針において「基本方針の策定及び変更」「その他文化芸術の振興に関する重要事項の調査審議」「文化芸術振興の推進状況の進行管理」の 3 つがあげられています。審議会は、基本方針の策定から 3 年後の平成25（2013）年 2 月に再開され、以後年 1 回、「文化芸術振興の推進状況の進行管理」を行ってきました。

進行管理においては、皆様のお手元にあります資料 3「基本施策等推進状況一覧表」などを用いて、3 つの方向、基本施策の名称、基本方針に記載された施策内容、これまでの推進状況について整理し、当該年度において重点的に行った施策の報告を行ってまいりました。

今後につきましては、この後の案件であらためてご説明いたしますが、まずは門真市の文化芸術振興の方向性とあわせて審議会の役割をご説明いたしました。

【朝倉会長】

ありがとうございました。ただ今、事務局からご説明いただきました内容について、ご質問やご意見はありませんか。

基本施策等の推進状況一覧表をいただいておりますが、今年度、特に推進した施策や事業があ

れば教えてください。

【事務局】

今年度につきましては、主にまちかど・まちなかコンサートの開催、門真の第九事業、マッセ OSAKA 研修への参加、ルミエールホールの老朽化調査などを行いました。

まず、まちかど・まちなかコンサートにつきましては、公共空間の活用を図るべく、平成26(2014)年度からルミエールホールの指定管理者であるトイボックスに実施を委託し、市内の様々な屋外空間・屋内空間で開催することで、公共空間の活用の可能性を示すことに努めております。28(2016)年度はこれまでに、昨年12月18日に二島小学校、1月14日に幸福本通商店街でクラシックコンサートを行いました。これにより、基本施策の「発表・観賞・体験の機会づくり」や「魅力的な都市空間の創造」などを進めております。

門真の第九事業につきましては、市制施行50周年記念として開催した第九コンサートを、市民自らが実行委員会を立ち上げて継続され、市職員も積極的に参画して門真市のイメージ向上につながるコンサートを準備しています。今年度は、2月19日(日)に公演を予定しておりますので、委員の皆様におかれましても、ぜひご覧いただきたいと存じます。門真市では、これを支援することにより、基本施策の「発表・観賞・体験の機会づくり」や「人材の発掘と育成支援」に努めております。

マッセ OSAKA 研修への参加につきましては、大阪府市町村振興協会研修研究部（マッセ OSAKA）が主催する、神戸大学大学院の藤野教授を指導助言者とする2か年の「文化・芸術を活かしたまちづくり研究会」に職員を参加させ、府内の市職員16名とともに、文化芸術に関する共同研究を行っております。

ルミエールホールの老朽化調査につきましては、築23年となって主要な設備等が更新時期を迎えているため、昨年度から調査を行いつつ、改修計画を検討しているところです。安全で安心な文化芸術活動の拠点を維持することにより、「文化芸術にふれられる場づくり」を後退させないよう尽力してまいります。

【朝倉会長】

ありがとうございます。推進状況一覧に基づきまして、今年度推進したものについていくつかご説明いただきましたが、何か質問はございませんか。

【清澤副会長】

神戸大学大学院の藤野先生の研究会というのはどういうものですか。

【事務局】

府内の市町村職員が参加できる研究会です。

【清澤副会長】

藤野先生のご専門は何ですか。

【事務局】

藤野先生は音楽文化論や文化政策学、アートマネジメントを専門にしております。また、「公共文化施設の公共性」という公共文化施設に関する書籍なども出版されております。

【清澤副会長】

それらを参考にして門真市の文化行政に活かそうというようなことですね。

こんな成果もあったというようなことを聞かせていただいても結構ですね。

【朝倉会長】

共同研究という言葉まで使われていますので、今後、その成果を審議会でもご発表いただければ我々も勉強になると思います。

それでは、私から 2 点ありまして、推進状況一覧表の 10 番「文化芸術に関する活動や資源を顕彰する仕組みづくりの検討」ということで、教育功労者の表彰というのは以前からされているのではないかと思います。それ以外で顕彰の仕組みづくりというのは何か検討はなされているのでしょうか。また、最後の 17 番「文化芸術振興基金の活用」というところで「活用実績なし」となっていますが、基金の活用というのは申請に基づいて何かをする、もしくはこちらから何かを提案していくものなののでしょうか。もし、申請に基づくものなら、どういう申請があったのかあわせて教えてください。

【事務局】

顕彰の方法につきましては、従来から教育功労者表彰といって文化芸術や社会教育などで顕著な功績を残された方を表彰する式典を毎年行っております。しかしながら、それ以外でここに書いておりますような市展の開催ということまでは具体的な企画には至っておりませんが、今、アトリグ門真と一緒にそういうこともできないかということを検討しているところでございます。

基金の活用につきましては、例えば、門真の第九コンサートへの交付金やルミエールホールの改修などに充てるための予算を計上することがあるのですが、最終的に決算で市の一般財源を充てることによって、取り崩さずに済んだというような状況になっております。申請に基づいて一般の団体などに補助をする仕組みというのは、別に市民公益活動事業補助金というものがありますが、こちらへの申請、補助に関しては基金を充てずに一般財源を充てております。結果的に、この基金を活用してこういうことをしましたという実績がなかったというところなんです。

【清澤副会長】

ルミエールホールの改修に使われるという話がありましたがどういうことですか。

【事務局】

ルミエールホールの改修費用として高額なものが定期的にかかるのですが、今のところ取り崩さずに済んでいます。

【朝倉会長】

こういった基金は、施設設備関係ではなく違った形で使っていただきたいですね。このあたりの有効な活用についても検討の必要はあるかと思えます。

教育功労者については、せっかくこういう項目がありますので、これも検討していただいて、例えばアトリグ門真のような活動が顕彰されてもいいんじゃないかと私は思っております。それによって、さらにそれが広まるということにもなると思えます。

他に何かございますか。

【清澤副会長】

ここに挙がっている幸福町・中町地区のまちづくりの推進は、現状どのような感じですか。

【事務局】

現時点におきましては、土地区画整理事業が進展中ございまして、現在も住んでおられる方などいることから、具体的な工事の着手には至っていません。土地区画整理事業の完了を待って、いろいろな事業を推進していきたいと考えております。

【朝倉会長】

ルミエールジュニアコーラスは、その後育っていつているのでしょうか。

【トイボックス】

毎年子どもたちに参加をいただいてまして、スタートした時点では発表の機会が年に 1 回程度しかなかったのですが、なるべくその機会をつくっていきたくて考えております。

そして、ジュニアコーラスに続いて、楽器演奏の方面で、子どもたちの成長の機会を提供したいと思い、門真市音楽協会さんと連携しながら、将来的にはジュニアオーケストラの設立を目指して、今年度からジュニアストリングスの活動を開始いたしました。

【朝倉会長】

育ってほしいなと強く願っております。特にジュニアコーラスについては全国的に減少傾向にございますし、非常に重要な活動だと思います。それからその発展形としてジュニアストリングスというものも素晴らしいと思いますし、この近辺でいうと、兵庫県朝来市の公民館などが主体になってオーケストラを十数年育てられてなかなか立派なものになっているという例もございますので、そういった活動も貴重かなと思います。

アトリグ門真は、今どのような状況で活動されているのか教えていただけますか。

【事務局】

アトリグ門真につきましては、平成 23（2011）年度から毎年開催している交流会「アートサロン」を平成 28（2016）年度も 8 月に開催され、約 50 人の門真市内外の文化関係者が交流を図られました。

平成 25（2013）年度の市制施行 50 周年記念の頃から第九や影絵、まちかど・まちなかコンサー

トの企画など、音楽や舞台芸術に注力しておられましたが、現在は門真市をテーマにした絵画展など美術に関する企画を行えないか、毎月会議を重ねながら検討しておられます。

職員につきましては、引き続きアートリーグ門真に参画し、基本施策の「文化芸術に関する交流の推進」などを図ってまいります。

【朝倉会長】

ありがとうございます。このアートリーグ門真について、何かご質問などはありませんか。

【清澤副会長】

メンバーの顔ぶれはあまり変わっていないですか。

【事務局】

はい、顔ぶれはあまり変わっていません。

【朝倉会長】

これは行政の方と文化の関係者の協働体であるということは非常に貴重な組織だと思いますが、これだけ続いているということ自体なかなか大変なことだと思います。この審議会でもアートリーグ門真を支援したいというのが本音ですが、あまり動きなどが伝わってこないのも、もったいないと思います。この審議会とアートリーグ門真がもう少し協調してやっていくというのは可能なのでしょうか。

【事務局】

はい、可能です。例えば、審議会に出席していただくであるとか、あるいは、案件 3 でもお話いたしますが、今後、委員を新たに選任するなど体制を充実させたいと思っておりますので、そのときにそれらの意向を反映できます。

【朝倉会長】

このアートリーグの構成員は、どのくらいの人数ですか。

【事務局】

10人程度です。

【朝倉会長】

そのうちの半分くらいが市職員ということですね。分かりました。

他にご質問はございますか。ないようでしたら、次の案件に移りたいと思います。

それでは、案件 2 「門真市民プラザ、公民館、文化会館の事業」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、案件 2「門真市民プラザ、公民館、文化会館の事業」について、ご説明します。

基本施策等の推進状況の進行管理を行っていくにあたり、市内の文化芸術活動の振興で大きな役割を果たす指定管理者を議論に加え、どのような事業を行っているか検証しようと、前回はルミエールホール・中塚荘の指定管理者であるトイボックスに事業報告を行っていただきました。

今回は、門真市民プラザ、公民館、文化会館について沿革をご説明した後、その指定管理者であるアクティオ株式会社から事業報告を行っていただきます。資料 4 をご覧ください。

門真市民プラザにつきましては、さまざまな分野における市民の自律的な社会教育活動等を通じ、市民力を育み、もって生涯学習の推進を図るため、大阪府立門真南高校の校舎を改装し、平成 19（2007）年に複合施設として設置されました。構成施設としては、生涯学習センター、青少年活動センター、体育館、グラウンド、図書館分館、市民公益活動支援センター、こども発達支援センター、なかよし広場、教育センター、防災倉庫などがあります。このうち、生涯学習センター、青少年活動センター、体育館、グラウンドの管理運営を、指定管理者であるアクティオ株式会社が行っております。

生涯学習センターは、市民の学習・文化活動を支援し活動の場を提供する施設として、平成 19（2007）年に門真市民プラザの開設と同時に設置され、生涯学習の拠点施設として利用されています。

青少年活動センターは、昭和 63（1988）年に沖小学校の隣に設置されましたが、平成 25（2013）年に現在の門真市民プラザの 3 階に移転され、青少年の健全育成を図る活動に利用されています。

次に、公民館・文化会館につきましては、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するために、公民館は昭和 61（1986）年に現在の建物が設置され、文化会館は昭和 43（1968）年に設置され、主に、文化的なサークルの活動拠点として親しまれてきました。

門真市では、これら施設の事業を通じて基本施策「生涯学習機会の充実」を進めています。

次に、平成 28（2016）年度から三館の指定管理者であるアクティオ株式会社から文化芸術に関する取り組みなどについて説明いただきます。

【アクティオ】

ただ今ご紹介いただきました、アクティオ株式会社 門真市民プラザ長の山本と申します。それでは、三館の文化芸術に関する主な取り組みについて、報告させていただきます。

まず、こちらの「文化芸術に関する取り組み」と書かれた資料をご覧ください。社会教育・生涯学習推進の核となる三館では、さまざまな事業に取り組んでおります。各館の事業を一覧にさせていただきました。文化芸術に関する取り組みを、各施設の事業からいくつか事業シートにピックアップいたしました。一覧の紹介は省略させていただきます。その後ろにある事業シートをご覧ください。

事業番号 1 をご覧ください。生涯学習センターは、子どもから高齢者までが学んでいただける生涯学習の場として事業展開を行っています。特に、周りの地域では高齢者の占める割合が非常に高く、また一人で暮らす高齢者も多く、多くの問題を抱え環境的には厳しい地域ではありますが、市民が持っている市民力を活かした事業展開ができないかと取り組んでおります。

まず、事業番号 1「プラザde朝市 門真もん・ロビーコンサート」について、ご説明します。

「門真を知ってほしい、門真をもっと好きになってほしい」との思いでスタートした「朝市 門真もん」は、単なる朝市ではなく、門真で生まれたもの限定の朝市です。門真特産の河内レンコンや市民の手作り品などの市民参加型販売や市民同士がつながることで、そこから生まれる生きがい作り、まさしく地域力を活かした活性化につながっていると考えています。中には、趣味でつくったものを友人にプレゼントされていた方が「朝市 門真もん」への出店を勧められ、購入者から喜んでもらうことの喜びだけではなく地域との交流から生きがいを感じた例や、また、講座の参加者が興味を持ち、ご自分で資格を取得しアクセサリー作家として出展されている例、さらには、無料でネイルマッサージやハンドマッサージを行うことで人の喜びや笑顔が自分の喜びとなり、お金ではない達成感を得られている参加者の例などがあります。こうして朝市に参加するもの同士が、互いの活動を通じて各自の生きがい、やりがいづくりにつながっています。

また、同時開催している「ロビーコンサート」は、「ふとした場所で、ふと耳にした音楽のある生活」から文化芸術への意識も芽生え、市民一人ひとりの豊かな生活環境に変化をもたらしています。それは単なるロビーコンサートだけでなく、時には出演グループ同士の交流も生まれ、めずらしいコラボや一緒に歌うことを楽しみにしていただきながら、門真で生まれる音楽のハーモニーを奏でていると感じています。

次に、事業番号 2「夏休み親子手作り教室」について、夏休みの期間を利用して親子で楽しんでいただくために企画しています。普段、時間に追われて、親子間でもゆっくりとものづくりを楽しんだり、創作を通じて想像力を豊かにしたりする機会が薄れてきているように感じています。例えば、木工作りや、アクセサリー作り、髪飾りやがま口など、保護者と一緒に楽しんでもらえるような内容の講座を展開しております。それぞれの作家さんにも、親子で一緒に作業して 30 分程度で作品が完成できるようにするなど、互いに達成感を感じる工夫をしていただいております。

次に、事業番号 3「生涯学習フェスティバル」について、日頃、市民プラザで活動されている団体の発表の場として、舞台発表 16 団体、展示 10 団体、体験教室 6 団体、オープニング演奏 1 団体、合計 33 団体が参加しました。目標をもって日頃の練習で上達した成果を見てもらうことで達成感を感じたり、作品展示をとおして交流をすることによって今後の制作への意欲をもったり、体験教室ではやってみたいものを発見したりとさまざまな活動をとおして、生涯学習活動の拠点施設として、また、市民交流の場としての役割を担っていると感じています。

次に、ここからは青少年活動センターの事業になりまして、事業番号 4「ぶら〜り門真」について、門真の自然や産業、文化遺産などさまざまな面にスポットをあて、フィールドワークを含めて郷土のすばらしさを再発見する機会として毎月第 4 日曜日に実施しております。

次に、事業番号 5「親子映画会」について、生涯学習センターにある IT 視聴覚室の有効活用の一環として、市民が気軽に文化的、教育的な映画を楽しめる機会を提供する目的で実施しており、日本や世界の童話や文学作品を上映します。

次に、ここからは公民館の事業になります。事業番号 6「公民館名作映画劇場」について、市民の皆様が手軽に映画を鑑賞していただくこと、また、今まで公民館を利用したことがない方へ公民館活動を広めることを目的に、今回は介護喜劇映画「ペコロスの母に会いに行く」を上映いたしました。このたびは、社会福祉法人門真市社会福祉協議会及び一般社団法人門真医師会の後援をいただきながら、大阪映画センターのご協力のもと上映いたしました。今後も、低料金で楽しめるよう取り組んでまいります。

次に、事業番号 7「GOS★POP」について、ゴスペルとポップスを組み合わせたこの事業は、市民の皆様に音楽をより身近に体験していただき、いろんな場所での発表会に参加をしていくアウトリーチに取り組んでいます。今回、東京、浜松、大阪では、枚方市と門真市の約 100 名が参加し、「熊本地震、東日本大震災の心の復興支援」やチャリティ CD 作成、京セラドームのオリックス・バファローズ公式戦での国歌斉唱にも参加いたしました。

次に、事業番号 8 について、先ほどのゴスペル事業に連動して、ゴスペルの CD のレコーディングを文化会館で実施しました。本事業は、「熊本地震、東日本大震災の心の復興支援」に連なるものですが、東京オリンピック・パラリンピックも見据えて、市民によるゴスペル事業が東京オリンピック・パラリンピックの『文化プログラム』のひとつになりうるものと着目しています。

次に、事業番号 9「教育支援・門真っ子」について、パートナーシップ事業として、市内の小学校を退職された教師 OB のボランティアで構成する NPO 法人門真っ子と協働して、近隣校区で希望する小学 3 年生 20 名を対象に国語と算数の学習支援事業を実施しています。

また、アクティオでは、このパートナーシップ事業を地域団体との「協働のしくみづくり」のための契機のひとつととらえ、門真の子どもたちの多様な学びの機会を実現する教育環境づくりの一環として、NPO 法人門真っ子との間でいろいろなアイデアを出し合いながら、『夏休み 読書感想文の書き方講座』を実施し、また市の指定事業である「理科講座“ノーベル”」を実施するなど、協働で企画・実施をしております。なお、この「理科講座“ノーベル”」は、3 月 29 日（水）に実施する予定です。

各館でこうしたさまざまな事業を通じて、市民一人ひとりが、文化芸術を感じ、考え、喜び、それが生きがいになる活動になるよう企画しております。これからも「来て良かった。来れば何かがある」と思うような生涯学習発展の地として、市民の交流や相互理解、協働活動を促進するとともに、市民の憩いの場として、それぞれの生涯学習の学びをとおしながら年代を超えた世代間交流や文化交流につながるよう、また、先ほどの基本方針の「文化芸術活動の推進」「文化芸術にふれられる場づくり」「文化芸術の担い手づくり」などの取り組みに寄与できるよう事業展開に努めてまいります。

これからの課題として、多文化交流についても、もっと力を入れて取り組んでまいりたいと思います。以上です。ありがとうございました。

【朝倉会長】

ありがとうございました。ただ今、アクティオからご説明いただきました内容について、ご質問やご意見はありませんか。

【清澤副会長】

多様な活動をされているんですね。参加数などを見ましても、参加されている人数が多い企画などもあるようですが、広報はどのようにされているのでしょうか。

【アクティオ】

各施設にチラシを置かせていただいたり、子どもの講座に関しては学校に配付や掲示をお願いしたりするなどして広報活動を行っております。特に、公民館での映画は、今回が初めての取組

みでどれだけ来ていただけるかが心配でしたが、10枚限定で無料鑑賞チケットの配付をFM-HANAKOで宣伝したり、ご協力いただいた門真市社会福祉協議会や門真市医師会の各施設に置いていただいたりしました。

【清澤副会長】

ルミエールホールのは、例えば駅で掲示するなどの方法がありますよね。もっと広報に工夫があればもっと広まるのではないかという感じもします。

【朝倉会長】

事業名の前に「指定事業」とあるのは、市から指定された事業を必ずやるよう事前に言われているという意味ですか。

【アクティオ】

はい、指定事業は市から指定されて実施することが決まっているものです。自主事業は、こちらで企画をして承認をいただいて実施をしているものでございます。パートナーシップ事業に関しては、地域の団体さんと一緒に取り組んで行っている事業です。

【朝倉会長】

指定事業というのを見ていますと、どちらかという教育委員会の範疇という感じがするのですが、アクティオさんが指定管理として応募されるときに文化芸術振興基本方針を踏まえた項目はないということでしょうか。

【アクティオ】

文化芸術振興基本方針を踏まえた項目はありませんが、万遍なくすることである程度クリアはできているのかなというところがございます。先ほど申し上げましたように、足りないところをこれから強化していくように努力してまいります。

【朝倉会長】

それは指定管理者の責任というよりも、こういった施設設備等をどのように展開していくかという市の考え方ではないかと思えます。そのあたりはどのようにお考えですか。

【事務局】

こちらは生涯学習施設、社会教育施設として、「門真市生涯学習推進基本計画」という計画を踏まえて企画をご検討いただくよう募集しておりましたが、門真市文化芸術振興基本方針についての紹介はしておりませんでした。今回、審議会にご参画いただいたことを機に、今後、意識していただけるようお願いしていくほか、次回の指定管理者の募集においては、きちんとそのことも踏まえて申請内容をご検討いただけるようアナウンスをしたいと思っています。

【朝倉会長】

分かりました。他にございませんでしょうか。

【登委員】

講師のいただくお金ですかね、すごくいいと思います。謝礼金が最大で9割とかってなかなかないです。部屋代として5割とか取られることも多いので、講師の目としてはすごく活用しやすいなとは思いました。

【アクティオ】

普段活動されている方が多い部分もあり、また市民プラザは立地が少し不便ということもあるので、軌道に乗れば多少は検討の余地もあるかと思いますが、最初はやりやすい、作りやすい価格や条件で進めております。

【登委員】

講師の方は頑張りたいと思われると思います。やっぱりお金は大事です。

【清澤副会長】

参加者はこの周辺の人が多いのでしょうか。

【アクティオ】

自転車で来られるくらいの距離の方が多いです。

【早川委員】

参加者というのは1年間での延べ人数ですか。

【アクティオ】

延べ人数です。年数回のものと同発のものがありますので、講座等の参加者数にはばらつきがあります。

【朝倉会長】

この門真市民プラザ・公民館・文化会館という3つの名前があるのですが、それぞれの場所の位置づけというのは、はっきりしているのでしょうか。公民館と文化会館の違いとか、考えてしまいますよね。

【早川委員】

魅力的な事業がたくさんあるので行きたい人も多いただろうと思うのですが、近くにないと足が向かないということもあります。せっかくの魅力的なメニューなので、もし他の館で同じものがあればそちらに行くということもあるかもしれませんよね。それで参加者が増えるということもあるかと思えます。

【アクティオ】

今年度から初めて各館でいろいろな事業を展開しておりますが、普段の部屋の利用に応じて空き室のみの利用を考えながら、初年度でどのくらいの事業をやっているのか、どのような事業が各館でニーズがあるのか検証しながらやっております。また、人気のある事業は他の館でも展開できるよう今後努めてまいりたいと考えております。

【清澤副会長】

内容としては、そんなにここでないとというものはないですね。どこでやってもできそうな内容ですし、そういう意味ではフレキシブルにこっちでもやるあっちでもやるとか、あるいは良いものであれば両方でやるとかですね、考えてみてもいいんじゃないでしょうか。

【朝倉会長】

一度コンセプトがはっきりするような名前に統一されるというのもいいかもしれないですね。

【清澤副会長】

わりと地道な市民対象の手作りの内容の事業ですね。ルミエールホールは市外に向けての幅広い事業をやるような使い分けがひとつありますし、中塚荘はどちらかといえば、こちらに合うような感じがしますよね。もちろん運営主体は変わっておられるのですが、そういうものはある程度融通して、お互い交流しながらやるということもよいですね。それから、地域に老人福祉センターなどのところにも当てはまりそうなものもありますよね。業務の範囲もありますから難しい部分もあるかと思いますが、うまく地元の施設と全て関係しながら連携するといいいんじゃないかと思います。

【朝倉会長】

現時点では、アクティオさんとトイボックスさんとの連携というのはなかなかできないんですよね。

【トイボックス】

できないことはないかもしれませんが、現時点ではほぼありません。

【朝倉会長】

例えば、地域の公民館や市民プラザでミュージカルの団体がずっと活動していて、最後の目標がルミエールホールのステージだとかいうような連携ですとか、それぞれが似たようなものを作っておられるということではなく、ひとつのものを連携して考えていくということが今後あってもいいのかなと思います。

【トイボックス】

先ほど清澤副会長のお話にあったとおり、中塚荘とは施設内容であったり規模感が近くて、門真市民プラザは体育館とグラウンドがあるという違いが少しありますけれども、他は似たような

部屋構成かなと思いますので、そこはこのプランを平均化することは可能なかなというふうに思います。ただ、市内の施設の分散を考えたときに、文化会館と中塚荘って結構近いんですね。公民館と門真市民プラザはうまくばらけているんですが、東側の施設が弱いのかなと思います。そうすると、そちらの住民の方にとっては、ルミエールホールもかなり遠いので、そんなにいらっしやらないというような市内の人の文化芸術の不均衡というのが存在するのかなという気はしています。

【朝倉会長】

そんなに大きな市じゃないような気もするけれども、実際には結構それがあるということですね。木ノ下委員は何かありますか。

【木ノ下委員】

前回と今回で指定管理者の双方にプレゼンテーションしていただいて、やはり生涯学習、教育委員会というスタンスで文化行政自体がそういう側面に偏っているのかなというのが全体的な総覧としての感想です。それはそれでとても重要なことだと思えますし、市民活動を支援するという門真市さんの文化政策の中で言ってらっしゃる「協働」という理念に基づいた施策の推進だとは思いますが。一方で、文化政策として、日常的な部分と非日常的な部分で、目標化とする大きな幹が、枝ばかりに隠れてどこにあるのかなというふうに若干見受けられるので、今後の課題のかなと思います。

それぞれ指定管理者の方々は、まずは施設の特性や住民意識の問題、文化度などに対してどのくらい関心があるのかということやいろいろなプログラムによって実験されている段階のかなと思います。ただ、一方で全体的ですけれども生涯学習が中心になっていることもあるのですが、目的化しているものが多いのかなと思います。例えば、ある程度結果が見えているものに対してのプログラムが多いのですが、文化芸術といったときに、その内面でいえば分からないこと、あるいは不明瞭なことも自分たちの中で受け入れる一つのきっかけづくりとしては、文化芸術というのは唯一の役割かとも思います。これを作りますというような目的化したプログラムって生涯学習によくありがちなお土産を持っていくパターンワークショップが多いかと思うんですけれども、そうではなくて協働したことによって違う新しい感性や考え方がうまれたなというような導きになる、あまり具体的な結果を求めなくても済むような枠組みを、行政の方から予算を勘案しながら指定管理者が自由にハンドリングできるような幅を設けていただくほうが、本当の意味での文化芸術振興、生涯学習とは違う形での展開になるんじゃないかなということを期待したいなと思います。

【朝倉会長】

今日の会議が任期の最後になるということで、全体的なものを踏まえて、最後にまたご意見をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

アクティオの方々としましては、意外な方向からの意見もあったかもしれませんが、また参考にさせていただいて、市と積極的に話し合いをしていただきたいと思います。アクティオさんの取り組みが不足だとかそういうことではなくて、市の姿勢をしっかりとすべきじゃないかなと考え

ておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、案件 3「今後の審議会」について、事務局よりご説明をお願いします。

【事務局】

それでは、今後の審議会について、ご説明します。資料 5「門真市文化芸術振興審議会スケジュール（案）」をご覧ください。

今後の審議会につきましては、次のとおり行っていきたいと考えています。

現在の委員の皆様は任期は平成 29（2017）年 1 月 31 日までであるため、平成 29（2017）、30（2018）年度の委員につきましては、今後、改めてお願いし、委嘱いたします。

平成 29（2017）年度以降の案件につきましては、現時点で次のとおり考えております。

第一に、門真市文化芸術振興基本方針が、平成 32（2020）年 1 月、年度で言うと平成 31（2019）年度の 1 月に策定から 10 年を迎えることから、この頃に見直しを行いたいと考えております。

一方、本市の最上位計画である門真市第 5 次総合計画の期間が平成 31（2019）年度までで、32（2020）年度から新たに策定される第 6 次総合計画の期間となる見込みです。

そのため、平成 31（2019）年度末に公表される見込みの第 6 次総合計画の内容を踏まえて、平成 32（2020）年度末に基本方針の変更を行いたいと考えております。

基本方針の変更につきましては、門真市文化芸術振興条例の第 6 条において「市長は、基本方針を変更しようとするときは、あらかじめ門真市文化芸術振興審議会の意見を聴かなければならない。」と規定していることから、基本方針の変更案の作成を審議会に諮問し、平成 32（2020）年度までに答申を得たいと考えております。

具体的には、平成 29（2017）年度から 32（2020）年度までの 4 年間に、2 年間である委員の任期が 2 回あることから、平成 29（2017）～30（2018）年度は、まず基本施策等の推進状況の検証を行っていただこうと考えております。次に、平成 31（2019）～32（2020）年度は、基本方針の変更案の作成を行っていただきたいと考えております。

具体的な検証方法や本文の修正方法などにつきましては、次の任期の委員となられる方々のご意見を伺いながら、検討を重ねてまいります。

今後、基本方針に掲げる基本施策等の推進状況の検証や基本方針の変更という大きな取組を行ってまいりたいため、平成 29（2017）年度から委員を 2 名増やした 7 名体制でやっていきたいと考えており、予算の獲得など庁内の調整に努めております。

最後に、機構改革により、平成 29（2017）年 4 月 1 日から、文化芸術振興を所管する部署が現在の教育委員会事務局 生涯学習課から市長部局に新設される市民生活部 文化・自治振興課となります。

現在の市民生活部 地域活動課や総合政策部 公民協働課などと統合し、地域との関わりを担う部署を一元化することにより、地域の連携強化や賑わいの創出をより効果的に図ろうとするものです。これを機に、あらためて体制を強化し、基本方針の変更や実現に向けて、委員の皆様のご指導、助言のもと、文化芸術振興に取り組んでまいりたいと考えております。

【朝倉会長】

ありがとうございました。我々、今回が任期の最後ということで、次の 29（2017）年度から 2

期、4年間で新しい方針を立てていくということでございます。これにつきまして、ご意見やご質問はありませんか。

委員を7名に増やされるということはとても良いことかと思えます。できるだけ広い意見を取り入れていただくということになりますね。

他に何かご質問などはありますか。

それでは、この2年間、委員をしていただきまして門真の文化芸術振興について、総合的な面でご意見を順番にいただきたいと思えます。

【登委員】

私もずっと門真に住んでいるのですけれども、新しい発見がとても多かったです。

個人的に、基本方針の13ページにある若手女性アーティスト9人展をぜひとも復活してください。参加していた9人とも仲良くなれましたし、すごく幅が広がって良かったです。この若手アーティスト9人展は無料で出展させていただいたのですけれども、出展者からお金をいただいても大丈夫だと思います。

【朝倉会長】

これは何回くらいあったんですか。

【登委員】

たしか4年くらい続きました。

【トイボックス】

最後は11人展だったと思います。

【登委員】

最初は7人とか9人で段々増えていきました。

【朝倉会長】

これはトイボックスさんの企画ですか。

【トイボックス】

我々が指定管理者になる前からスタートしていました。

【朝倉会長】

どうしてなくなってしまったのですか。

【登委員】

私は何年間か続けてさせていただいたのですが、作品をつくるのに追い付かないし毎回同じ出品者だと面白くないなと思ったので、また来年もという話をいただきましたが遠慮しました。そ

の後の経緯などは分かりません。

【朝倉会長】

そういう活動の中から核になる方が出ていらっしゃって、市なりルミエールホールなりと交渉して継続していくとか、そういう努力も我々として必要になるのかなと思います。

【早川委員】

マンネリ化しないような工夫が必要ですね。

【朝倉会長】

担い手づくりというところで、そういう方のネットワークについて、もう一度具体的に考えられてもいいのかなと思います。行政がいつも場を提供していく、もしくはホールが場を提供していくとなると、逆にそれに頼ってしまって、やってくれなかったからできなかったというひ弱な文化活動になると思いますので、市とかルミエールホールがやるのはきっかけづくりくらいのつもりで動いていくべきかなと思います。

【朝倉会長】

次に早川委員お願いします。

【早川委員】

色々なワークショップをされていますが、単発で終わるのではなく、継続すればもっと違うものもつくれるようになりますよというような案内も必要なのではと思います。最初はコースターだけでも、将来的にはベッドカバーがつかれるようになるということであれば来たいと思う人が多くなるかもしれません。

【アクティオ】

今後検討してまいります。

【朝倉会長】

次に清澤委員お願いします。

【清澤副会長】

具体的な施策だとかは出ておまして、その検証ということも大事なことだったと思います。条例ができてからずいぶん変わってきたんじゃないかと思うんですね。市もいろいろと努力されて具体的な文化芸術活動も進んできましたし、まだスタート時点だと思うのですが、これからもっと広げていていただきたいなと思います。

今度部署が変わるということですよ、市長部局になるんですかね。こういう文化行政で一番大事なのは、市長のお考えだと思うんです。市長がその気になればいろいろなことが動き出すし、そちらにネガティブであればどんどん減少してくるでしょう。いわゆる市民の教育とは割と一体

的なものだとは思いますが、あまり文化的な市のPRというか市民活性化ばかりやると、やはりだいたい地元志向型になってくるので、もう少し市民自身の情操や教養レベルを高めていくための文化芸術施策ということを考えていく必要があるんじゃないかと思うんですね。

今、条例をよく読んでいたのですが、そこどころがもう少し私どもも力不足だったかもしれません。読み込みが少ないですね。やはり身近な芸術にふれ、創造し参加することが目的ということですから、その趣旨としては、今やっておられることは正しいことだと思います。ただ、条例全体の本来の趣旨というのは、あまり好きな言葉ではないですが、例えば民度を上げるとかですね、それから教養レベルだとか情操活度を上げていくということをやっぴり一番大きな部分だろうと思います。その辺を見据えたような文化活動を、今度の見直しの段階ではぜひ取り入れて、それに応じてどういう施策があるのかということをもう一度考えてみる必要があるのではないかと思います。

それから、トイボックスさんとかそういう意識を持ちながらやっておられると思うんですが、なかなか現状の枠が厳しい部分があって広がらないところもあると思いますし、やはりそれには市長がじゃあそうやってみようかという考えも結構大事だと思うんですね。今回、市長部局になった部分で期待しますし、庁内での一種の啓発といいますか、ぜひ若手の方が中心になって進めていただいて、市長の文化に対する意見を変えていってほしいと思います。それから、一元化できないぶん、連絡をどういうふうにして社会教育とこういう文化芸術を繋げていくか、今後の課題として考えていっていただいたらいいのではないかと思います。

【朝倉会長】

ありがとうございます。それでは木ノ下委員はいかがですか。

【木ノ下委員】

年に2回ということもあって、なかなか都合が合わず2年間という任期としてはあまりお役に立てなかったかもしれませんが、私も改めて条例を拝見させていただいておりましたが、この基本方針の22ページの重点施策の推進の短期、中期、長期という形で設定されているところで、基本方針ができてからの方針と施策、実行の3点から今までの検証をしつつ、今がステップ1のどの段階にあるのか、あるいはステップ2にあるのか、短期から長期までの中での施策で必要なこととは何なのかを読み込んだ中では、わりとステップ1の土壌づくりに対する文化振興施策のかなと思います。幹っていったときに、恐らく誇りっていうのは自分たちでは気づかない高い目標、あるいは本当に定住していきたいという強い目標になっていくと思います。文化に関わっている方々が定住化するっていう実績も数値で挙げられているかと思いますし、日常的な個人の満足をそこで達成する生涯学習も重要なんです。もう少しパブリックな意識として、この市にある文化って何だろうかと市民一人ひとりが自分のこととして意識できるような事業、あるいはそういう施策っていうのも実は必要んじゃないかと思います。個人の満足とパブリックな満足というのは表裏一体かと思いますが、どちらかに偏っているかなというのは否めないと思います。それは、門真市さんに限らず、私が他の行政市でいくつか委員をやる中で思うんですが、どうしてもやっぴり一人ひとりの満足が、みんな満足していたら言わないだろうと思います。

文化が今までは全体の中の文化施策ではなくて、行政の目標の中での、どちらかというとお飾

りというか、ある程度プラスアルファの位置づけだったと思うのですが、昨今では文化が包括的なことをのテーマを扱えるということで施策の位置づけが変わってきていると思います。市長部局になられるということですから、重要施策の推進という大きい目標に対して、担当部局の担当の方々が必死になって市長を含む方々のある程度の理解と、やはりその人たちが本気で推進していくんだというような方針がつかれるよう努力していただければなと思います。

【朝倉会長】

ありがとうございます。それでは、最後に私から。

部局も変わるということですが、我々委員も変わりますし、担当の方々も異動ということがあったりしてなかなかこういったものを積み重ねるといのが難しいなというのが感想です。

どうも文化というものが遠慮しているところがあって、アーティストなんかも「文化はお金がかかってお客さんもあんまり来なくてごめんね」みたいな、「補助金なんてもらってて申し訳ないな」みたいなそんな感じなんですけれども、文化っていうのを公共の財と考えてみると、公共の財というのは警察とか消防とか、あそこは儲かってないからけしからんとはだれも思わないわけで、私はどんどん文化というものにお金を本当はつぎこんでいかないといけないと思うんですね。

老朽化した文化会館のようところで活動して誇りが持てるかとか豊かな気持ちになれるかという、逆になんか貧しい気持ちになってしまうというのが正直なところじゃないかと思います。文化は市民の生活の柱になるものだとということをもっと自信をもって発信していただけたらと思います。

こういった活動はもっと大事なものだということを市民に分かっていただくために、例えば、市民の方が傍聴に来られたことってほとんどなかったと思うんですけれども、広報で募集する方法だけではなく、逆にこちらから文化活動をされている方々に傍聴に来てくださいとか、この審議会にはいつも傍聴の人がいっぱいいて、今のルールでは傍聴の人は意見を言うてはいけないと思うのですが、そういう時間を設けるとか、盛んだなというイメージを作っていくとあかんと思うんです。

それと、市長なりがそういうところに対して大胆な発想をもたないといけないと思うんですね。例えば、豊中に芸術文化センターができましたけれども、そのセンターの指定管理者は、JTBコミュニケーションと日本センチュリー交響楽団なんですね。ということは、あそこでやられるいろいろな講座や室内楽などは交響楽団が企画し請け負っていくわけで、一般的に見るとけしからんやないかと思うかもしれませんが、方針としてあえてやっているように思います。そこで、あんな長い歴史の中で、やっと豊中市には大阪音楽大学があるやないかと気がついたのか、音大の学生がまちのあちこちで演奏するというようなことが始まりました。門真にも我々が見逃している、あるいはその価値に気がついていないものがあるかもしれないので、そういったものを大胆に、例えば、女性アーティストがものすごく活動しやすい市なんだとか、何かそういう柱をつくられたらどうかなと思います。何か有名なプレイヤーも来る、地域の方や子どもが何か発表しているなど、思い切って何か柱を建てられてもいいのかなと思います。

【朝倉会長】

それでは、事務局より何かありましたら、よろしくをお願いします。

【事務局】

審議会委員の皆様には、平成27（2015）年 2 月より 2 年間にわたりまして、種々の案件についてご審議賜りましたほか、貴重なご提言等賜りましたこと、御礼申し上げます。

平成19（2007）年に文化芸術振興条例を制定し、その後の平成22（2010）年 1 月に文化芸術基本方針を策定いたしまして、すでに 7 年間に経過いたしました。この間、文化施設、社会教育施設においては、指定管理者のご理解のもと、自主事業においても協働をベースとして、市民の皆さんが参加できる機会、場づくり、あるいは、積極的に生涯学習活動としての文化芸術活動に取り組んでいただくために、さまざまなイベントや講座の開催などの参加の機会づくりにも協力を求め、ご尽力いただいております。市としても、より多くの市民の皆さんにとって、門真市の文化芸術活動が誇りや生きがいにつながるように、ともに交流しながら育てていくというように、成長、発展を念頭にした参画事業にも取り組んできたところでございます。しかし、これらはすべて、まだまだ始まったばかりで、文化芸術振興のためには、次の担い手づくりや、新たな挑戦も続けていく必要がございます。

長い間、門真は文化不毛の地と、自虐も含めていわれてきましたが、それらを過去のこととするため、これから、先ほどご意見をいただきましたように、柱や幹となるようなもの、また文化度を上げるものを、長い目で育ていけるように、市民の皆さんとともにアイデアと熱い思いを持って何かを創作していこうという希望、楽しみは、現在増している状況でございますので、これらを原動力にチャレンジいたしたいと考えております。

財政状況は依然芳しくない状況にありますが、公民協働、市民力を生かしての文化芸術振興の方策はあると存じます。これまでいただきました委員各位のご意見を追い風に、今後、しっかりと計画を見直して、実効性のあるものとして将来につなげてまいりたく存じます。

委員各位におかれましては、今後とも、ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝をお祈り申しあげまして、御礼の言葉とさせていただきます。

【朝倉会長】

ありがとうございました。それでは、これをもちまして平成28（2016）年度第 2 回門真市文化芸術振興審議会を閉会します。